

農業技術センター発明「ジョイント仕立て」の特許が登録されました！

果樹花き研究部

当所が開発した、樹と樹をつなげる画期的な果樹（ナシ・ウメ）の栽培技術「樹木の樹体ジョイント仕立て法」は、平成24年1月6日付けで特許が登録されました（注※）。

この技術は、下の写真のように列状に植えた樹を接ぎ木によりつなぎ、直線状の集合樹として仕立てることで、作業の動線がまっすぐになり、栽培管理が単純になるため、作業の省力化が図られます。また、これまで熟練を要した剪定も分かりやすくなり、作業時間が2～4割削減され、規模拡大も可能になります。さらに、従来よりも3～4倍多く苗木を植えることで、より短い期間で樹形を完成し、苗木を植えてから生産量を回復するまでの期間が、これまでの約半分の5年程度となりました。

既に全国のナシ産地からも、老木化したナシ樹の改植、省力化、低コスト化、後継者確保を図る新技術として期待されており、本技術の産地への導入が進んでいます。

※発明の内容は「1本の主枝を持つ樹木の主枝先端部を一方方向に水平に誘引し、水平になった主枝先端部を、同一方向に向かう1本の主枝を持つ隣接樹のその主枝基部と接ぎ木することにより、樹木を連続的に連結することを特徴とする、ナシ又はウメの樹木の仕立て法」（特許第4895249号）です。



ナシのジョイント栽培



収穫期を迎えた現地のナシ園

現在は、このジョイント技術をさらに応用、発展させるため、平成21年度より農林水産省の受託研究（新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業）として、様々な果樹（リンゴ、モモ、カキ等）を対象としたジョイント技術について、全国の研究機関と共同研究を進めており、今後の成果が期待されます。

また、農林水産省は、現場への速やかな普及を図る技術の一つとして、平成22年にナシのジョイント栽培を選定しました（農業新技術2010）。さらに同省は、この技術を現場に導入する際の経費の一部が、一定の条件を満たせば補助を受けられる制度も設けており（果樹経営支援対策事業）、本技術のさらなる普及と、園地の若返りが期待されます。